

## 1 中期学校経営方針

### (1) 学校経営中期取組目標

#### 学校経営中期取組目標

- 学校教育目標実現に向けて、「チーム上郷」として、全職員で活力と魅力にあふれた学校づくりを目指します。
- ・児童一人ひとりが充実した学校生活を送ることができるよう、教育課程の運営・改善に努めます。
- ・人権尊重の精神に基づいて誰もが安心できる居場所を提供し、児童を温かく見つめ諸問題を的確にとらえ迅速に対応する教職員の育成に努めます。
- ・小中の連携に努め、互いの立場を十分に理解して、9年間の教育活動を推進します。
- ・挨拶を大切にし、物事の善悪を正しく判断する心を育てます。
- ・地域の活動に積極的に参加し、地域とのつながりを強めていくとともに、地域社会に貢献できる力を育てます。
- ・すべての教職員が相互に啓発・連携する活気あふれる教職員を目指します。

### (2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)	基礎基本の定着を第一に、学年で学ぶべき内容について「わかる授業」「楽しい授業」を進め、「個に応じた指導」を充実させることに努める。	①メンターチームの機能を充実させ、互いの授業を見合うことで授業力の向上を目指す。 ②学年研で授業の進め方、評価の仕方を十分に共有して進めることを目指す。 ③校内授業研や小中一貫授業研究会で積極的に授業を公開し授業内容の充実に努める ④よりの確な指導を行うために、少人数指導を徹底し効果的な学習を目指す。
担当	学習指導部	

## 2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

### (1) 学力の概要と要因の分析

全体的に、横浜市の平均的な学力より低い状況は、変わらない。引き続き基礎基本を定着させる授業や繰り返し練習する時間の確保、特別支援の対象の児童の取り出しの充実がさらに必要である。

また、多くの児童がどの教科の勉強も大切だと考えているが、教科の勉強が好きだと答える児童は、学年が上がるにつれて減っている。勉強を好きになるためにも、教師がわかる授業を行うことが大切である。

### (2) 教科学習の状況

- 国語科：基礎基本の知識が定着していない。スキル学習が身についていないため、知識・理解・技能の正答率が低い。
- 算数科：学習意欲はあるが、基礎・基本が定着していない。知識・理解・技能の問題については、学年が上がるごとに正答率が下がってきている。
- 社会科：調べ学習は、進んで行っているが、知識としては身につけていない。見学や体験など、体感していたことへの知識や思考は高い
- 理科：興味をもって、思考しても、それが知識に結びついていない。興味関心は初めての器具や実験に対してであり、科学的な興味関心とは言えない。

### (3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

平成27年度から29年度過去3年間の経年変化の状況から、学校全体として市の平均より学力A層の割合が低く、D層の割合が高い状況は変わらない。また、学習意識や生活意識も市の平均より低い。

家庭での勉強時間や1日の読書時間が市の平均よりも低く、30分未満の児童が全体の半分以上いる。勉強は大切だと感じているが、自分から課題を見つけて学習することには消極的だといえる。基礎基本の定着を図るために、家庭学習の内容を精選し、一人ひとりが自力解決できる質や量を考え、家庭にも伝えていく必要がある。学校でも朝自習の時間を活用し、基礎基本の定着を図れる取り組みを行っていく。また、「学校図書館に行くことは好き」という割合は高いが、読書傾向を見ると偏りがあったり、高学年になると貸出数が減少したりする傾向にある。国語の学習と関連させながらいろいろな本に親しめる活動を考えていきたい。

今年度は、語彙量を増やす取り組みとして言葉集めを行っていく。学年に応じて、季節や感情の言葉など見つけ、学級で共有する活動を進めることで、知識を深めていけると考える。

経年変化の状況から、児童が主体的に学ぶ「わかる授業」「楽しい授業」を進め、一人ひとりにあった支援をしていく必要がある。学年間だけでなく、教員間で教科にあった指導方法や展開の仕方など、情報を共有していくことが大切である。

## 3 平成30年度 学年・教科等としての具体的取組

### 1 学年

- 国語科等で、説明する文章、紹介する文章を書くなど、表現活動を大切にする。
- 分からないこと、知りたいことを尋ねたり、気持ちを表情や態度、言葉で表したりしながら対話するように指導する。

### 2 学年

- 生活科等で、体験を通して自分の生活について考えられるよう文章で表すなど、表現活動を大切にするとともに話し合いをする場面を位置付ける。
- 自分の経験と結び付けて、感想や考えをもつように指導する。

### 3 学年

- 社会科等で見学・調査したことを説明する文章、記録する文章を書くなど、表現活動を大切にする。
- 理由や根拠を尋ねたり、まとめたり補足したりしながら話し合うように指導する。

### 4 学年

- 算数・理科等で説明する文章、記録・報告する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 順序を付けたり関連付けたりして考える学習を計画的に位置付ける。

### 5 学年

- 国語等で説明する文章、意見を述べる文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 関連付けたり分類・整理したりして考える学習と振り返りを計画的に位置付ける。

### 6 学年

- 今まで身に付けた様々な文章を書く力を自覚的に生かすことができるようにする。
- 関連付けたり、分類・整理したり、多面的に考えたりする学習と振り返りを計画的に位置付ける。

### 個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を位置付ける。
- 子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし、必要な取組を行う。
- 子どもに応じた分かりやすい情報発信をするなど、言語環境の整備を行う。